



7/18 旧下関英国領事館 リニューアルオープン

今回の保存修理工事では、英王室の許可を得て、失われていた玄関上部の紋章を復元しています。復元は、古写真や紋章院の助言などに基づいて、当時の紋章を忠実に再現するよう努めました。

1906(明治39)年に建てられた旧下関英国領事館は、領事館として使うために建てられたものとしては、国内に現存する最も古いもので、建設から100年以上が経過しました。
平成20年12月からの保存修理工事が終わり、7月18日にリニューアルオープンします。

これまでの歩み

1954
建物の
市有化



英国領事館の再開

1952年、県・市が一体となって領事館の再開を求める運動を起こすが、実現しなかった。英国は不要となった領事館建物の払下げを下関に打診し、1954年に下関市が300万円で購入した。

1941
日英開戦・
国交断絶

第二次世界大戦の開戦により、領事館を閉鎖

1922年、関門地域の領事事務を除く領事館機能が長崎の英国領事館に移管されたことから、下関の領事館は閉鎖された。しかし、瓜生商会(英国系商社のホームリンガー商会下関支店)支配人が領事代理などに任命され、建物を引き継いで縮小された領事事務にあたった。1940年末、時局の悪化に伴い、領事代理も離日して領事館は無人となった。



1906
新築



唐戸町に領事館新築

領事館は程なく赤間町から南部町に移転したが、「仮リニ領事館ヲ設置シタル」ものであったことから、領事館の建設地を唐戸町の現在地に選定し、新築した。この時、新築された建物が現在の旧下関英国領事館で、領事館前には下関港と海峡が広がっていた。

●当時の主な業務●

山口・広島・福岡・大分4県の通商貿易の促進が、下関英国領事館の主な業務でした。

1901
領事館開設

赤間町に英国領事館開設

1901年、英国政府が下関に領事館を開設。関門両港の国際貿易港としての役割を重要視したことによる。駐日英国公使であったアーネスト・サトウは、下関への領事館開設を強く本国へ具申した。その結果、この年の9月、赤間町26番地に領事館が開設された。

●なぜ下関に開設したのか…?●

アーネスト・サトウは、近代交通の要衝として成長していた下関に目をつけました。
・下関港と門司港の開港
・鉄道の開通
など、下関が外交・貿易の拠点となる可能性を見いだしたからこそ、英国本国へ働きかけたのです。

2008-2014
保存修理
整備活用

次の100年へ

これまで、用途などに応じて改造や大小さまざまな修理が行われてきたが、今回「半解体修理」という100年後を見すえた、文化財としての根本的な保存修理。耐震補強や地盤改良、復元などの工事を行った。唐戸地区の活性化に配慮し、「公の施設」として整備した。

1999
重要文化財

5月13日 重要文化財に指定

指定理由は、「領事館として使用することを目的に建設された建物としては、わが国に現存する最も古いもので、歴史的価値が認められること」と「明治期の外交関連施設の一典型を示すものとして貴重である」というもの。



1989
改修

下関市考古館となる

前年に市民の保存運動が実り国史跡に緊急指定された綾羅木郷遺跡から出土した遺物などの展示施設として活用。



改修後、文化財として公開

1986年に考古館を閉館。1987年に下関市指定有形文化財に指定。唐戸地区の再開発に伴い、領事館の整備計画を策定して改修し、公開文化財・市民ギャラリーとして活用。附属屋は喫茶スペースとして利用。

1970
考古館

下関警察署唐戸派出所として利用

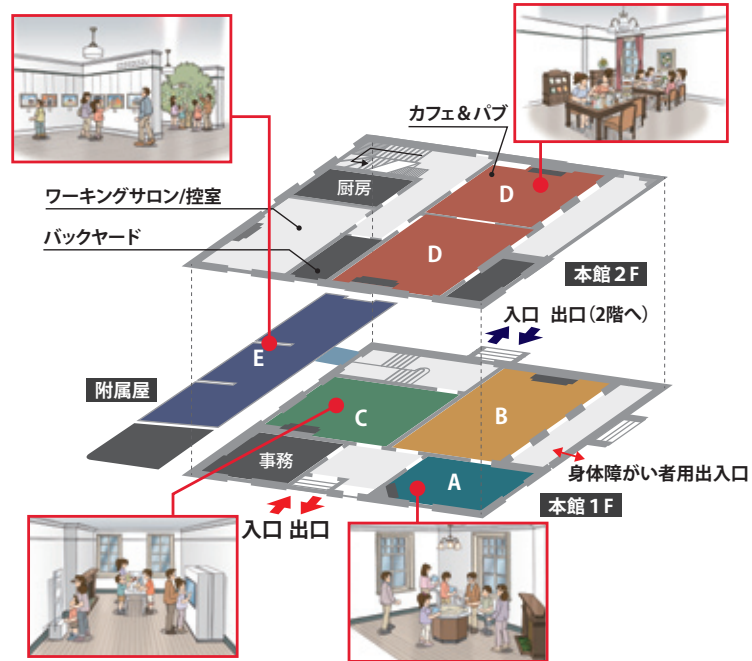
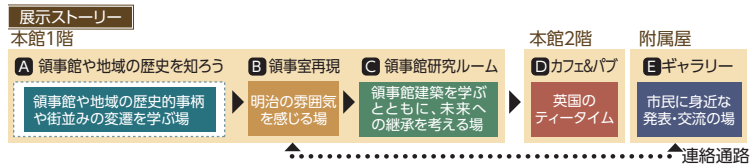
1958年~1968年、建物を山口県に貸与し下関警察署の派出所として利用された。利用にあたり、建物の改造や修理が行われた。

1958
派出所



かつて日本とイギリスをつないだ 旧下関英国領事館へ行ってみよう！

■館内の利用イメージ



ふぞくや 附属屋ギャラリーを利用しませんか

附属屋ギャラリーの使用の受け付けを開始します。

- 使用目的：地域づくりを目的とした展示や発表、講座などの活動、ワークショップ、会議など
- 利用施設等：施設…附属屋ギャラリー(約49平方m)
- 募集対象期間：平成26年9月1日～26年12月27日
- 受付開始日：平成26年8月5日(火)午前9時から
- 受付方法：使用許可申請書を旧下関英国領事館へ。※詳細は、7月17日までは文化財保護課、7月18日以降は旧下関英国領事館にお問い合わせください
- 決定方法：受付順
- 使用料：下表の通り

(単位：円)

	午前	午後	夜間	昼間	午後・夜間	全日
	9:00 ～12:00	13:00 ～17:00	18:00 ～22:00	9:00 ～17:00	13:00 ～22:00	9:00 ～22:00
附属屋 ギャラリー	400	500	600	900	1,100	1,500
中庭	100	100	200	100	200	200

旧下関英国領事館

住所 下関市唐戸町4番11号
電話 235-1906 (7月18日以降)
FAX 235-1901 (同上)
開館時間

- ▷本館1階=午前9時～午後5時
- ▷本館2階・附属屋=午前9時～午後10時
- 7月17日までの問合先=文化財保護課(☎254-4697)



二階建てロンドンバス



2階建てロンドンバス・ルートマスターはかつて、ロンドン市内の路線バスとして活躍後、下関市へ。現在はあるか？とに展示されている。

藤原義江記念館



瓜生商会の支配人N・B・リードの子息でオペラ歌手・藤原義江の記念館。瓜生商会支配人が英国領事の代理領事だったことから英国領事公邸とも知られている。

六連島灯台



1867年、幕府が兵庫開港に備えて英国公使と約定した5つの灯台の一つ。英国人技師R・H・ブラントンの設計により、建設された。

角島灯台



1876年、英国人技師R・H・ブラントンの設計で初の点灯。高さ29.6m。御影石造りの円形灯台で、360度のパノラマが広がる。

下関市上水道



下関の上水道システムは1906年、全国で9番目に敷設された近代上水道システム。英国人技師バルトンの調査に基づき、水道技師・瀧川鋭二が設計。